

障害ある子の親 悩み共有

慣れない「新しい生活様式」



春日井の「桃山会」が相談会

発達障害や知的障害のある子どもたちは、新型コロナウイルス感染防止のため「新しい生活様式」に慣

れるのが難しく、保護者は頭を悩ましていて、そんな保護者たちにとって、春日井市のボランティア団体の

「悩み相談以外にも気軽に参加して」と呼び掛ける中村さん(手前)＝春日井市浅山町1の総合福祉センターで

「桃山会」が開く相談会は、悩みを共有できる貴重な場となっている。

桃山会は八年前、市内の同じ発達支援施設に通っていた子どもたちの母親が立ち上げた。現在の会員は七十人ほど。月一回、同市浅山町一の総合福祉センターにあるボランティアルームで活動し、障害児を持つ保護者向けに雑談形式の相談会を開いている。

コロナの感染拡大とともに、相談会の参加者が急増しているという。代表の中村優子さん(同左)は「コロナ禍で生活が変化し、新たな悩みを抱えた親御さんからの相談が増えた」と話す。

中村さんによると、発達障害や知的障害のある子どもは、マスクや消毒、ソーシャルディスタンスといった「新しい生活様式」に慣れるまで年単位の時間を要するという。周りの環境の変化にも敏感で、体調を崩したり、混乱して騒いだりすることもある。

成長した子どもがマスクを嫌がったり、消毒した手をすぐ口に入れたりすることに對し、事情を知らない周囲の理解を得るのは難しい。感染拡大で相談会を開けなかった期間中も、無料通信アプリLINE(ライン)で中村さんにコロナに関する悩みが多く寄せられたという。

中村さんは「外出しづらい状況の中、親は一人で悩みを抱え込んでしまいがちになる。悩み相談以外でも親同士で話したり、情報交換したりしてストレス発散の場として相談会を活用してほしい」と話している。

◎桃山会＝momoyama_kai@yahoo.co.jp
(小林大晃)